

金何圓	何	娼妓何人分
內		
金何圓	何	
金何圓	何	
金何々	何	
(以下之ニ做フ)		
金何圓	娼妓兼業何人分	
內		
金何圓	何	
金何圓	何	
金何々	何	
(以上之ニ做フ)		
右上納候也		
年 月 日	免許地名貸座敷取籍	
	何 某 印	

何警察署
又ハ何分署

御 中

第五章 罰則

第三十六條 第三條第六條第七條第九條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第二十條第二十一條第三十條第三十二條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第三十七條 第二十三條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十五條第十項ニ據リ處分セラルヘシ

○縣令第四十七號 明治二十二年六月七日

本年五月縣令第六十八號貸座敷娼妓取締規則第二十四條中滿十四年トアルヲ滿十六年ト改正ス

○告示第七十號 明治二十二年六月二十一日

有害ノ鳥獸ヲ除カント欲スル者ハ自今所轄警察署へ出願スヘシ
但本文願書ニハ其鳥獸名及ヒ被害ノ狀況ヲ詳記スヘシ

明治廿三年
令第十八号
以テ本文中
入

○縣令第百號 明治二十二年十一月十一日

何人ヲリトモ格魯兒酸加溜漢(鹽素酸加溜漢又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受セントスルトキハ左
ノ書式ニ依リ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ賣主授主ノ所轄警察署ニ
出願可ク受シヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ
前項ノ手續ニ違背シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日
以上十日以下ノ拘留ニ處ス
書式 用紙半紙美濃紙ノ内

明治廿三年
令第十八号
以テ本文中
改正

藥品賣買(授受)届
一 格魯兒加溜漢
何程
右ハ醫業上(工職用等何々)必要ニ付前書斤量賣買(授受)致度御認可被成下度
候也

明治廿四年
令第六号
以テ本文中
入

○縣令第百二號 明治二十二年十一月二十二日

湯屋營業ノ儀ハ自今土地ノ繁閑人口ノ多寡及同業者トノ距離ヲ測リ許否ニキキ付從來ノ
營業者ト雖モ建物再築又ハ燒失等ニ罹リタルトキハ移轉ヲ命シ若クハ再築ヲ許サント
アルヘシ

本籍何府何市何郡何町番地族籍	何府何市何郡何町番地族籍
現住所何府何市何郡何町番地	何府何市何郡何町番地族籍
買主(受主) 氏 名印	買主(授主) 氏 名印
年 齡	年 齡
何警察署長	官氏名宛

○縣令號百三號 明治二十二年十一月二十八日

明治十六年六月甲第四十四號布達本縣違警罪目第一項ヲ削除ス

○縣令第百五號 明治二十二年十二月四日

明治二十年九月縣令第百九號中第八條ノ下ヘ「第十一條」ノ四字及ヒ第二十七條ノ下ヘ「第二十八條」ノ五字ヲ挿入ス

明治廿四年縣令第三十四號

○縣令第百八號 明治二十二年十二月七日

劇場建築標準左ノ通相定ム

但從來ノ設置ニシテ此標準ニ適合セザルモノハ其發布ノ日ヨリ向フ五箇年間ニ漸次改造スルモ苦シラカス

劇場建築標準

第一條 劇場ハ公衆ノ安全ヲ保ツルカ爲メ左ノ條項ヲ遵守シ尙ホ全體ノ構造ヲ堅牢トスヘシ

第二條 劇場ハ成ルヘク人家稠密ノ場所ニ離レテ建築スルヲ要ス

第三條 劇場ハ學校病院ヨリ直徑一丁半以內ニ於テ建築スルヲ得ス

第四條 劇場ハ其前面三間半以上左右後面各二間以上ノ道路アルヲ要ス

但左右若シハ其一方ノ道路私設ナルトキハ非常出火等ノ節直チニ開放スルノ準備ヲナシ平常ハ其前後ヲ圍ヒ置キ看客ノ運動場等ニ用フルモ妨ケナシ

第五條 劇場ノ正面ハ道路ノ境界ヨリ建前ノ土臺迄二間以上ヲ越ケ建築スルモノトス

第六條 表木戸ハ二箇所以上トシ尙ホ其右左後面ニ非常口トシテ各二箇所以上ノ木戸設ケル

但第四條但書ノ場合ニ於テ棧敷ノ後面總テ板戸又ハ障子ヲ以テ閉閉スヘキ構造ノモノハ左右ニ限リ故ラコ木戸ヲ設ケルニ及ハス

第七條 前條表大木戸ノ幅ハ九尺以上其他及ヒ非常口ノ幅ハ六尺以上トシ總テ之ヲ外開キノ兩扉トナスヘシ尤モ出火等ノ節ハ輒ク開放シ得キ構造ニスルヲ要ス

但表大木戸ニ限リ左右若シハ片開キノ引戸トナスモ妨ケナシ

第八條 非常口ノ外際高キ地盤ヨリ七寸以上ナルトキハ石段ヲ設ケヘシ其幅ハ左右ノ柱際ヨリ外ヘ各一尺五寸以上延長シ階段ハ第十一條ノ法ニ依ルヘシ尤モ高キ三尺以上ニ及ブトキハ幅ノ延長ハ各五寸ヲ増スモノトス

但本條ノ石段ハ三分八厘以下ノ勾配ニ土ヲ盛リ之ニ換フルモ妨ケナシ

第九條 棧敷並ニ之ニ沿フタル廊下ノ天井ノ高サハ下棧敷及ヒ其廊下ノ床板ヨリ二階ノ敷板迄ヲ七尺以上トシ二階モ之ニ倣フ上下棧敷正面ノ手摺ハ敷板及ヒ床板ヨリ高サ各一尺五寸以上トシ之ニ板ヲ張ルヘシ

但二階棧敷ハ前面ノ柱ヨリ外へ出スコトアルモ其柱際ヨリ七尺五寸ヲ越ユルヲ得ス

第十條 棧敷中特ニ椅子ニ倚ルヘキ席ヲ設クルトキハ其前面ノ手摺ハ敷板又ハ床板ヨリ高サ二尺三寸以上二尺五寸以下トシ之ニ板ヲ張ルヘシ其左右間仕切ノ高サハ二尺以上トス

第十一條 兩側二階棧ノ敷階子ハ表口ニ寄リ各一箇所向棧敷ニ一箇所之ヲ設ケ階段ハ箱段ニシテ一段ニ付蹴込ハ六寸ヨリ高カラス同ク踏面ハ八寸ヨリ短縮スヘカラス其階子ハ棧内法四尺五寸以上トシ成ルヘク之ヲ壁ニ添ヘシメ且殊ニ堅固ナル欄柵ヲ設ケヘシ其高サハ二尺七寸以上三尺以下ニシテ短柱ノ間ハ五寸ヨリ廣クスヘカラス

但向棧敷ノ階子ヲ二箇所ニ別ツトキハ欄柵内法三尺五寸以上トスルモ妨ケナシ

第十二條 左右棧敷ノ距離六間未滿ニ在テ前條兩側階子ノ幅内法五尺五寸以上ナルトキハ向棧敷ノ階子ハ之ヲ設ケサルモ苦シカラス

但本條棧敷ノ距離ハ其前面ノ柱際ヨリ度ルモノトス以下棧敷ノ距離トアルモノ皆同ク

第十三條 左右棧敷ノ距離五間未滿ニ在テハ第十二條ニ掲ケル階子ノ幅ハ内法三尺五寸迄短縮スルコトヲ得

但兩側階子ノ幅ヲ内法四尺五寸以上トスルトキハ向棧敷ノ階子ハ之ヲ設ケサルモ苦シカラス

第十四條 二階廊下ノ舞臺ニ寄リテ欄柵ニハ各堅固ナル欄柵用キニシテ欄内法三尺以上ノ階子ヲ設ケ置キ之ヲ非常ノ用ニ供スヘシ尤モ階段及ヒ欄柵ノ法ハ第十一條ニ依ルヘシト雖モ其階段ノ蹴込ハ六寸五分迄ハ之ヲ延ハスコトヲ得

但其隅ニハ引戸又ハ外開キノ戸ヲ設ケ置クヘシ

第十五條 二階棧敷ノ階子ハ第十一條第十四條ニ掲ケルノ外各所ニ増設スルモ隨意ナルヘシ

但其製ハ尙ホ前條ノ法ニ依ルヘシ

第十六條 階子ノ上下兩口ノ餘地ハ成ルヘク廣潤ナルヲ要ス狹キモ階子ノ幅ヨリ短縮スルヲ得ス

第十七條 二階ノ下リ口ノ外其空所ノ縁コハ欄柵ヲ設ケ之ヲ階子ノ欄柵ニ接續セシムヘシ

但柵欄ノ寸法ハ第十一條ニ依ルヘシ

第十八條 上下棧敷ノ左右間切リハ敷板及ヒ床板ニ高サ各一尺二寸以上一尺四寸以下トス

但其手摺際ハ本條ノ高サニ依リテ是ヨリ斜上リニ後面ノ柱ニ向ヒ其極高サ敷板又ハ床板ヨリ四尺迄トシ板張リノ間切リトナスモ妨ケナシ

第十九條 上下棧敷ノ客間ハ縱横各三尺七寸以上トシ高土間及ヒ平土間モ同尺ヲ以テ一柵ノ仕切リトナスヘシ

第二十條 平土間ノ舞臺際ハ其前面ノ一列ニ限リ半柵ヲ設ケルコトヲ得此場合ハ横ハ本柵ト同尺ニシテ縦ハ本柵ヲ折半シタルモノトス

第二十一條 棧敷ノ裏通リハ幅内法四尺以上ノ廊下ヲ設ケヘシ
但左右棧敷ノ距離五間未満ニ在テハ本條ノ幅ハ内法三尺五寸迄短縮スルコトヲ得

第二十二條 花道ノ幅ハ適宜タルヘシト雖モ假花道ノ幅ハ一尺五寸ヨリ短縮スルコトヲ得ス

第二十三條 平土間ハ高サ三寸以上ノ床板ヲ張ルヘシ
第二十四條 平土間ノ柵仕切リノ高サハ床板ヨリ一尺以上一尺二寸以下トシ二柵毎ニ幅七寸以上ノ通路ヲ表木戸ノ方ヨリ舞臺ニ向ヒテ設ケ又横ハ便宜位置ヲ計リ一筋以上同幅

明治廿四年縣令第三十五號ヲ以テ削除
明治廿四年縣令第三十五號ヲ以テ削除
明治廿四年縣令第三十五號ヲ以テ削除
明治廿五年縣令第九條トシテ以下順次繰上ケ

ノ通路ヲ設ケヘシ

但通路ノ板張ハ柵仕切リノ高サト同シカルヘシ

第二十五條 高土間ノ柵仕切リノ高サハ平土間ト同シ一尺以上一尺二寸以下トス

第二十六條 高土間ノ花道及假花道ヨリ下棧敷迄ノ間ニ二柵以上ヲ並列スルモノハ其花道ニ向ヒ縱二柵毎ニ幅六寸以上ノ通路ヲ設ケヘシ其板張リノ高サハ第二十四條ノ但書ニ同シ

第二十七條 舞臺ト平土間トノ境界ニ餘地ヲ置クトキハ其餘地ハ柵ヲ柵仕切リト同シ高サニ板ヲ張ルヘシ

第二十八條 引幕ノ位置ハ舞臺ノ前而點燈ノ位置ヨリ二尺五寸以上ヲ隔テ、之ヲ設ケヘシ
但本條點燈ノ位置ヨリ度ルハ其燈火ヨリスルモノトス

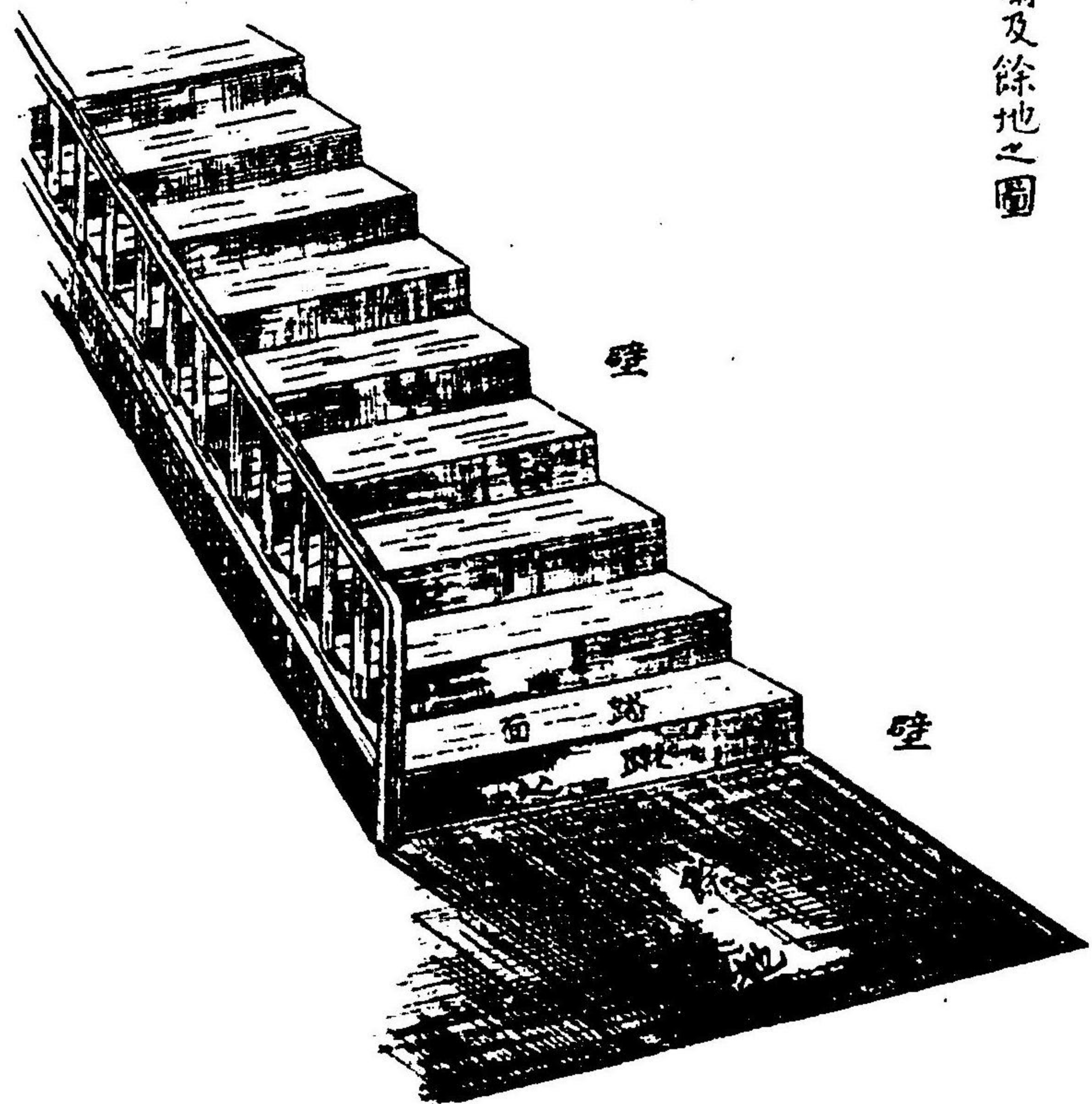
第二十九條 奈落廻リ舞臺ノ下ハ石若クハ煉化石ヲ構造スヘシ
但花道ノ下ニ通路ヲ設ケルトキハ本條ニ依ルヘシ

第三十條 燈油及ヒ掲燈取扱ノ場所ハ別ニ不燃質物ヲ以テ之カ一室ヲ設ケヘシ

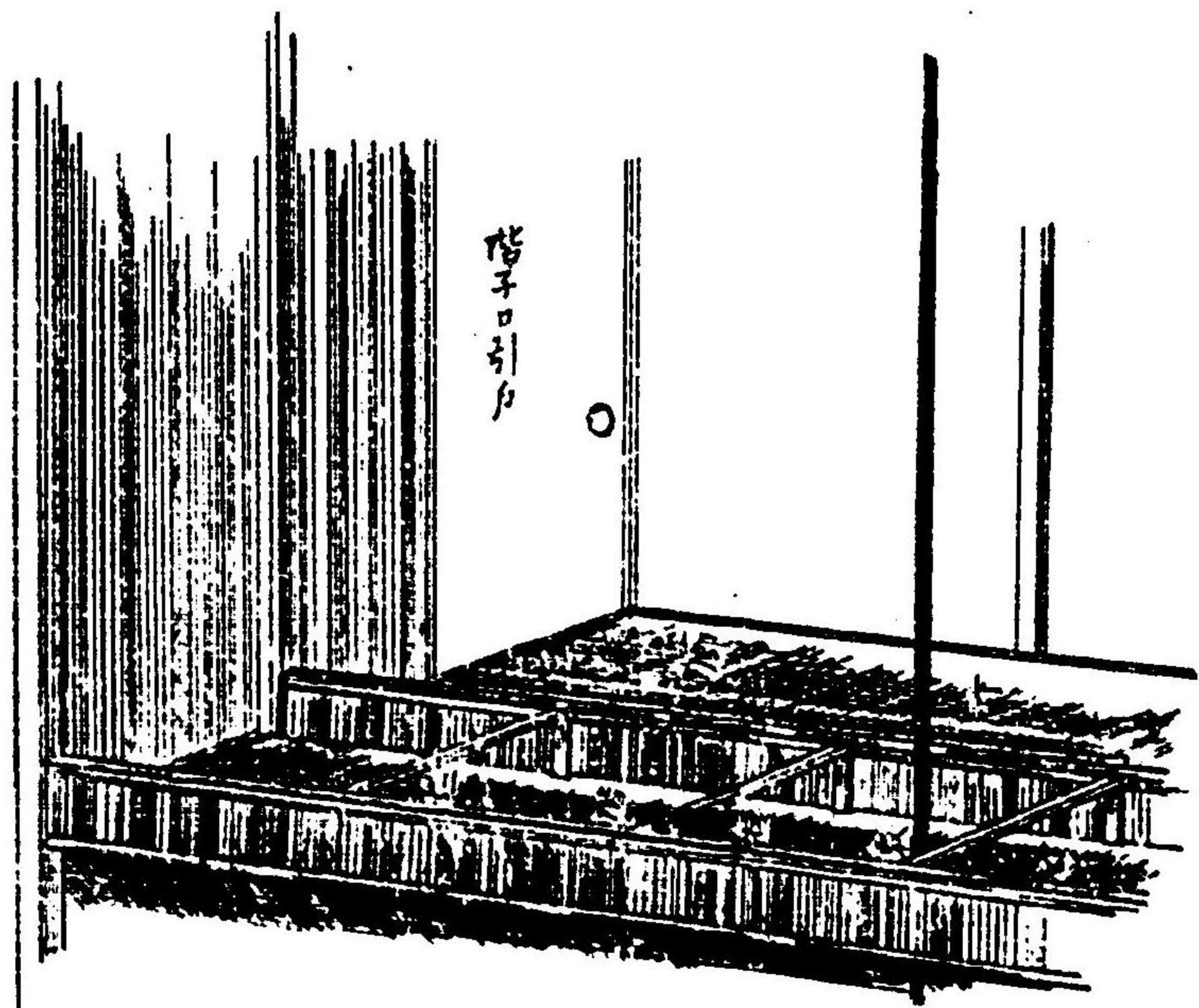
第三十一條 廁ハ成ルヘシ揚屋ノ左右ニ構造スルヲ要ス其屎尿ヲ受容スヘキ部分ハ石、敷キ、陶器等ヲ以テシ其國內ノ通路ハ幅四尺以上トシ總テ石敷又ハ敷キヲ用フヘシ

但小便所ノ數人共用スルモノハ一人別ニ之ヲ仕切ルヘシ
 第三十二條 塲中ハ空氣ノ流通ヲ計リ各所ニ窓牖ヲ設ケルヘシ
 第三十三條 此標準中構造ノ入り組ミタルモノハ尙ホ別紙ニ圖ヲ以テ之ヲ示ス
 但其圖面ハ警察署及分署ニ備置スルニ付一覽ヲ要スルモノハ同署ニ就テ覽ルヘシ

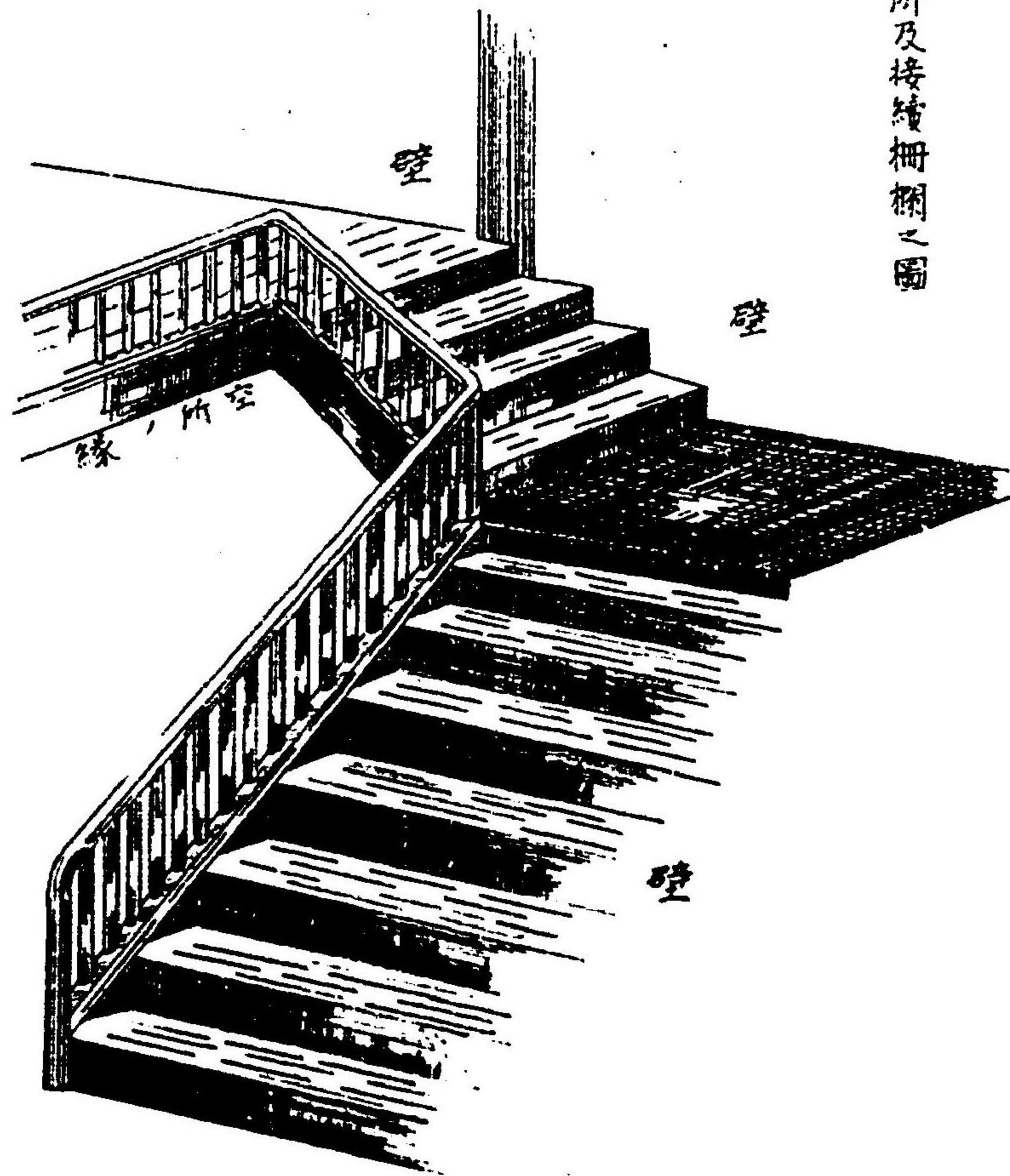
階子段柵欄及餘地之圖



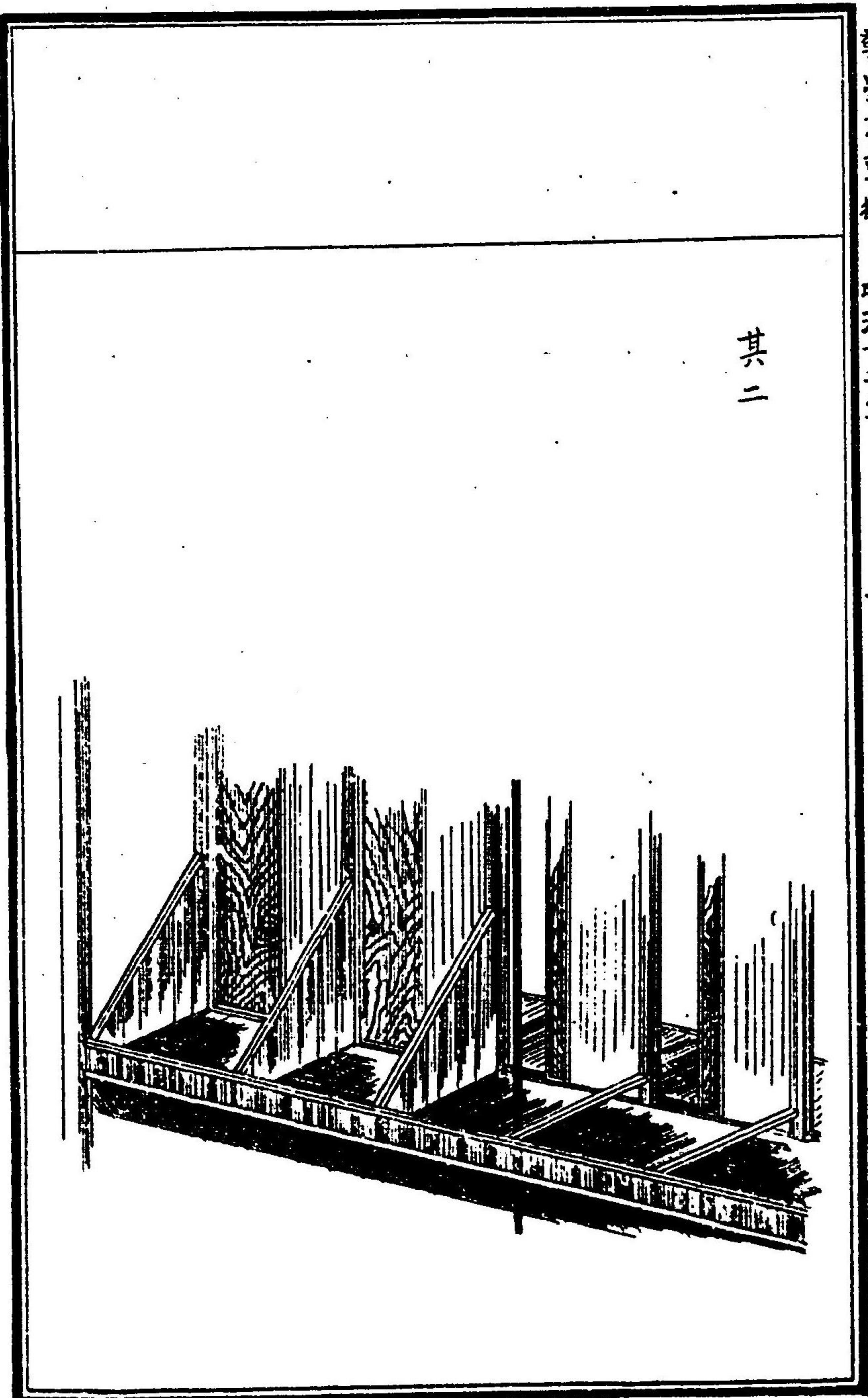
二階接敷同廊下之圖



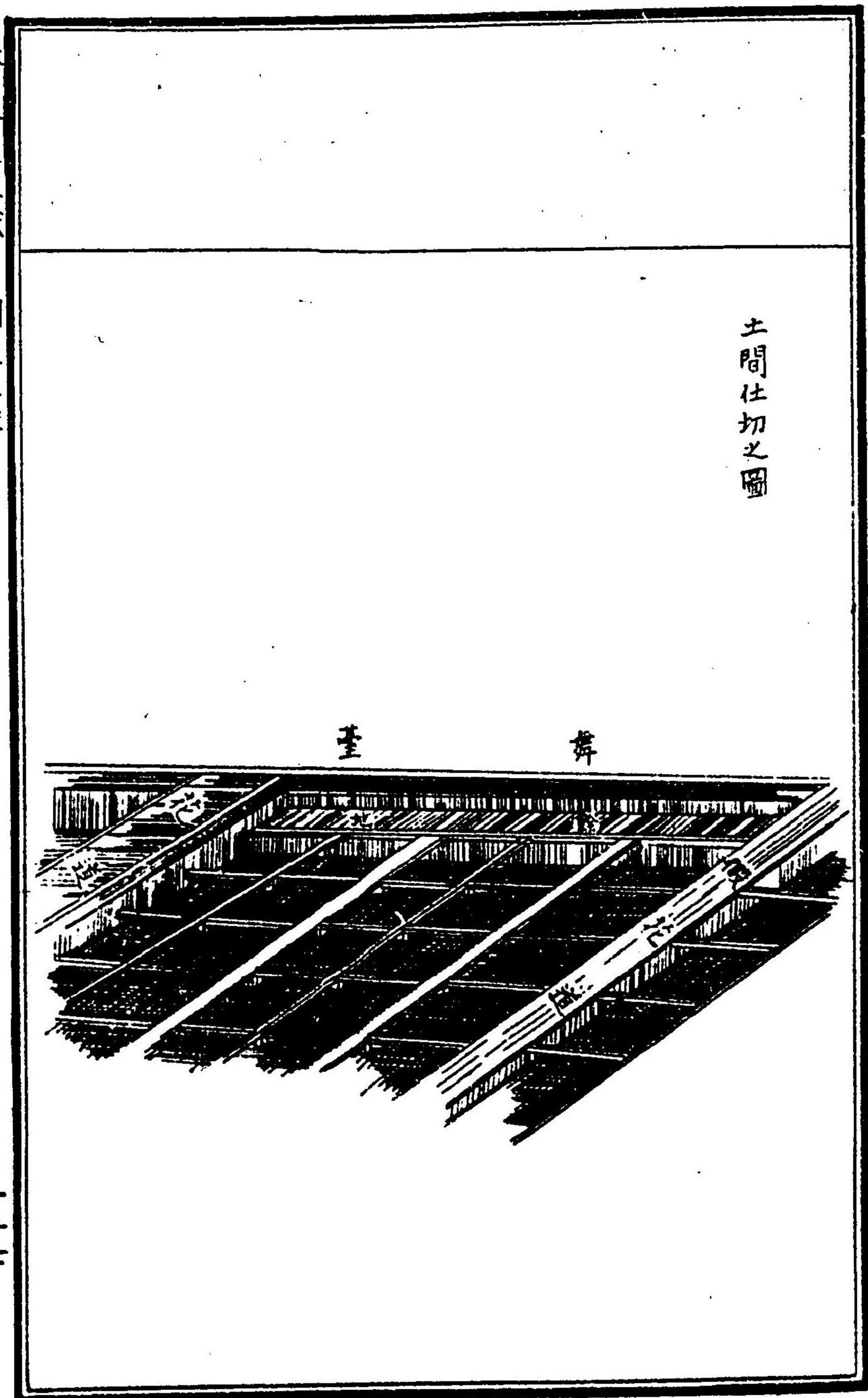
二階空所及接續柵欄之圖



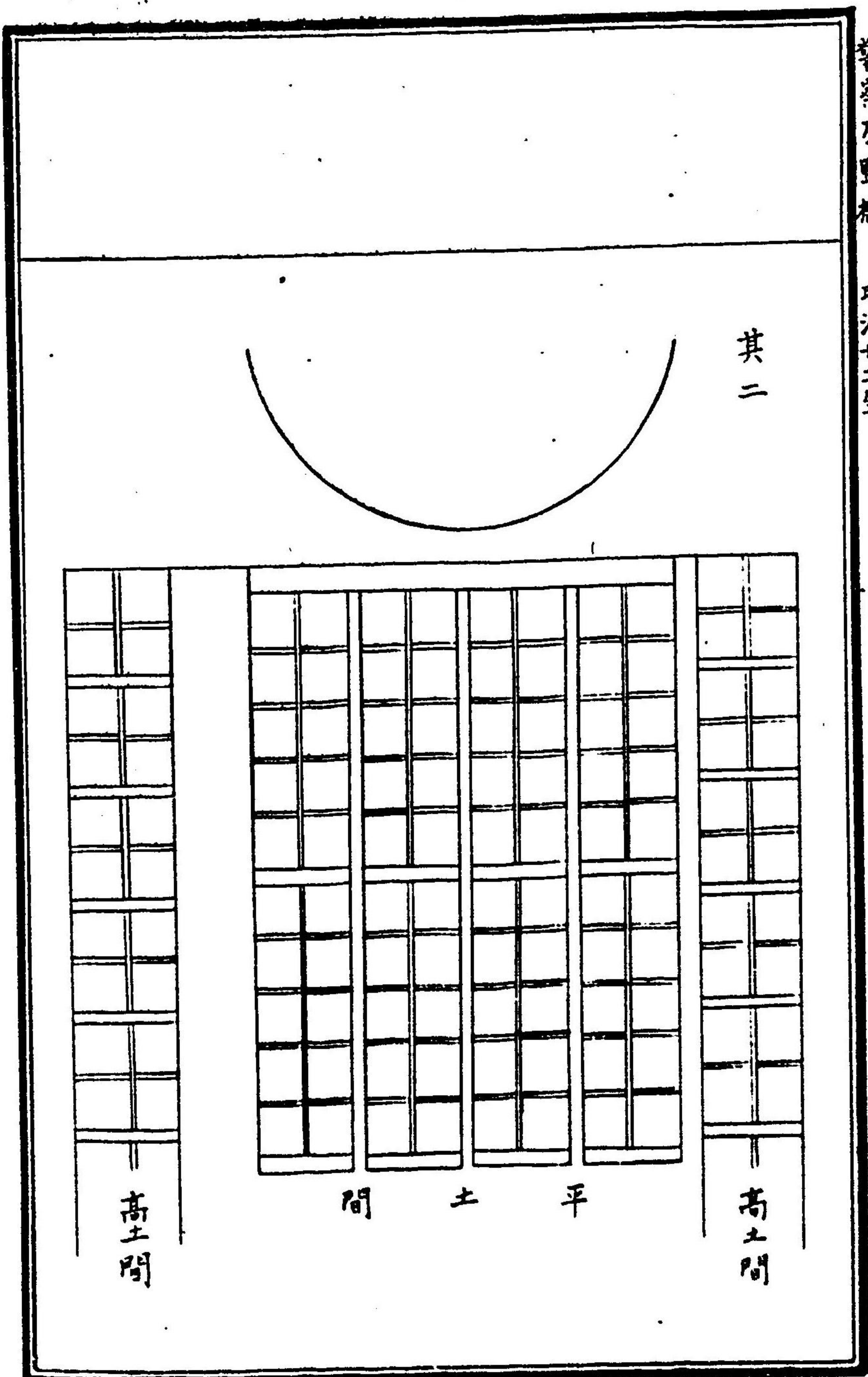
其二



土間仕切之圖



臺 葬



○縣令第百十一號 明治二十二年十二月十九日

本年五月縣令第六十八號貸座敷鳩枝取締規則第三十三條及第三十五條中左ノ通改正増補ス

第三十三條々左ノ通改ム

第三十三條 開廢業者ニ係ル賦金ハ月ノ十五日前後ヲ以テ區分シ開業十五日前ナレハ全

額十六日以後ハ半額廢業十五日前ナレハ半額十六日以後ハ全額ヲ納ムヘシ

但一旦廢業スルモ同期内ニ再ビ開業スルトキハ其賦金ハ之ヲ納ムルニ及ハス

第三十五條 賦金上納書式内譯ノ各末項へ左ノ一項ヲ追加ス

金何々 何月何日開(廢)業 何 某

○縣達第百號 明治二十二年十二月二十四日

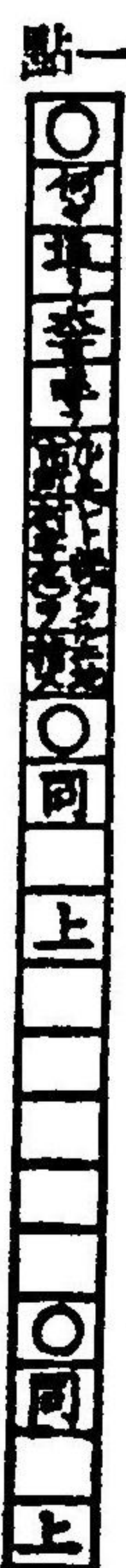
郡市町村

出火其他非常等ノ節警鐘信號左ノ通相定候條來ル明治二十三年一月ヨリ該信號ニ依リ打方履行スヘシ

但村ニシテ警鐘ノ設ケナキ地ハ板木ヲ以テ之ヲ換フルモ妨ケナシ

警鐘信號

一 知ラセ

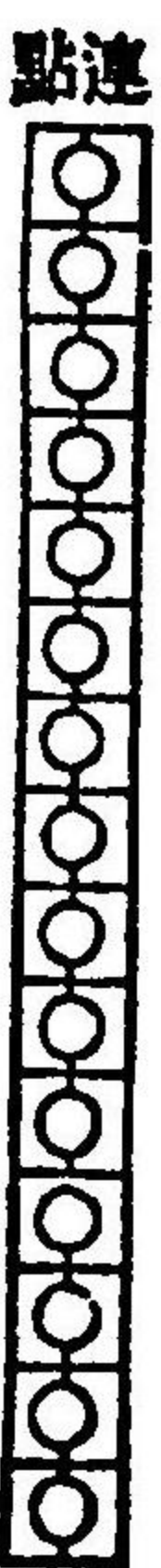


此信號ハ其市町村外及ヒ村内ト雖モ遠方ノ出火ヲ認メタルトキ打ツモノトス尤モ本文ニ示シタル三點ノ外打ツヘカラス

但市町村ノ内外ヲ識別シ難キ場合ハ先ツ此信號ヲ用フルモ苦シカラス

右ハ警察本部警察署分署市町村通シテ打ツモノトス以下銃火ニ至ル迄皆同シ

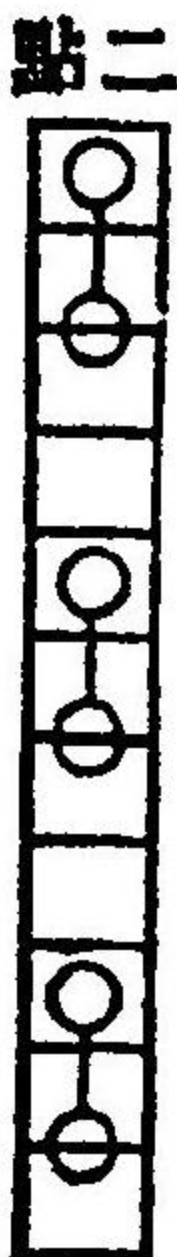
一 近火



度數定リナシト雖モ凡ソ二十分間以上打ツモノトス

此信號ハ火ノ見ヨリ直徑凡ソ三丁以内ノ出火ニ限リ打ツモノトス

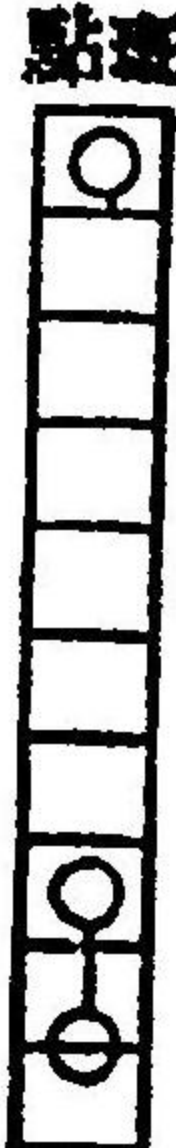
一 出



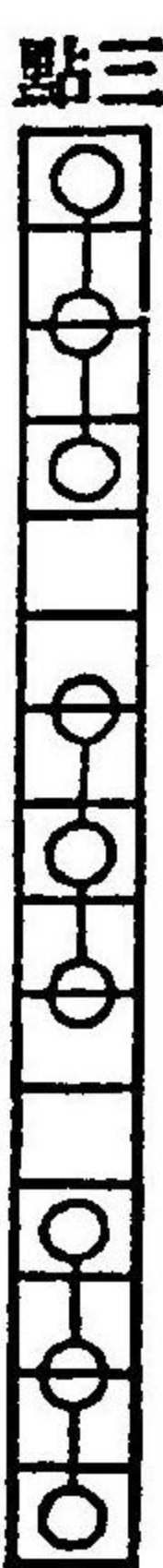
度數定リナシト雖モ凡ソ二十分間以上打ツモノトス

此信號ハ消防組ノ出張ヲ要スルトキ打ツモノトス

一 鎮火



一 臨時招集

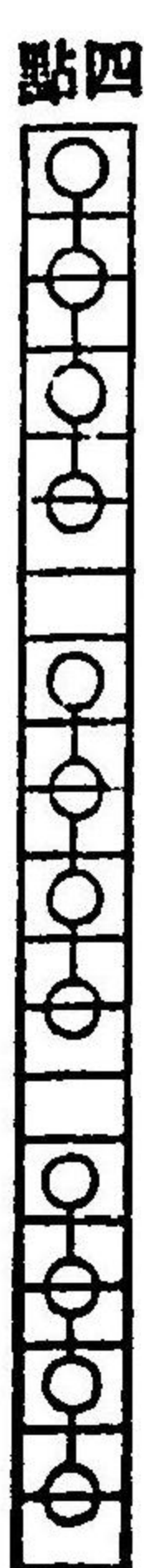


度數定リナシト雖モ凡ソ二十分間以上打ツモノトス

此信號ハ一定ノ場所ニ臨時消防組ヲ招集スルトキ打ツモノトス又強風出水等アリテ其防務ヲ要シ消防組ヲ招集スルトキモ亦同シ

右ハ警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ打始メ其署在地ニ他ノ各半鐘アルモノハ同ク之ニ倣ヒ打繼クモノトス警察署分署ナキ地又ハ之アルモ其半鐘ナキ地ニシテ町村役場ニ半鐘アルモノハ同役場ニ於テ之ヲ打チ始ムルモノトス

一 非常



度數定リナシト雖モ凡ソ二十分間以上打ツモノトス

此信號ハ非常事件又ハ洪水等ノ爲ノ一般警戒ヲ要スルトキ打ツモノトス
右ハ警察本部若クハ警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ打始メ其署在地ニ他ノ各半鐘アルモノハ同ク之ニ倣ヒ打繼クモノトス警察署分署ナキ地又ハ之アルモ其半鐘ナキ地ニシテ町村役場ニ半鐘アルモノハ同ク之ニ倣ヒ打繼クモノトス警察署分署ナキ地又ハ之アルモ其半鐘ナキ地ニシテ町

村役場ニ半鐘アルモノハ同役場ニ於テ之ヲ打テ始ムルモノトス

○縣令第百十二號 明治二十二年十二月二十八日

出火場ニ於ケル心得左ノ通相定ム

出火場 心得

- 一 出火場ヨリ凡ソ一丁方位ヲ警護線トス此線内ニハ左ニ掲クル者ノ外誰リモ入ルヘカラス
- 一 線内ニ財産ヲ有シ或ハ居住スルモノ
- 二 前項ノ親戚知人ニシテ救護ヲ爲サントスルモノ
- 三 線内ノ官衙又ハ學校病院等ニ勤務スルモノ
- 四 線内ノ社寺又ハ銀行商社等ニ直接關係スルモノ
- 五 線内ノ校舍等ニ入學又ハ通學スルモノ
- 一 消防組ノ行進及ヒ該器械等ヲ運搬スルニ方リ其進路ノ障礙ヲ爲スヘカラス
- 一 夜中ハ出火場ヨリ三丁以内ノ居宅ハ門戸ニ點燈スヘシ
- 一 出火場ヨリ三丁以内ノ居宅ハ臨時戶外ニ水ヲ盛リタル桶樽ノ類ヲ出シ置キ自他ノ用ニ

明治廿三年
令第三十三號
ニヨリ消滅

一 私有ノ井戸泉水等防火ノ爲メ需用アルトキハ之ヲ拒ムヘカラス時機ニヨリ警察官吏ニ於テ牆壁ヲ排毀セシムルコトアルヘシ

供スヘシ

○縣令第百十五號 明治二十二年十二月二十八日

明治二十年八月縣令第九十三號乘合馬車取締規則第十五條左ノ通改正ス

- 第十五條 營業者ハ出願ノ際身元保證金トシテ左ノ金額ニ該當スル公債證券若シハ國立銀行預リ券ヲ所轄警察署又ハ分署ニ納ムヘシ
- 一 營業者 一人ニ付 金五圓
- 二 馬車 一輛ニ付 金二圓

明治廿三年
令第三十四號
ニヨリ消滅

○縣令第百十六號 明治二十二年十二月二十八日

明治二十年八月縣令第九十四號營業人力車取締規則第十三條左ノ通改正ス

第十三條 營業者ハ出願ノ際身元保證金トシテ左ノ金額ニ該當スル公債證券若シハ國立銀行預リ券ヲ所轄警察署又ハ分署ニ納ムヘシ

- 一 營業者 一人。付 金一圓
- 二 人力車 一輛。付 金一圓

○縣達第二號 明治二十三年一月十一日

郡市町村

岡山縣巡查並ニ警察備奉職ノモノニシテ其父母又ハ他ニ侍養者ナキ祖父母看護者中若クハ自己疾病轉地療養等ノ途次變災ニ依リ期日歸任スル能ハサルトキハ其地市役所町村役場ノ證明ヲ要ス事ニ規程候旨該縣ヨリ照會越候條自今右證明書請求候モノ有之候ハ、事實取糺シ相違ナキモノト認ムルトキハ之ヲ付與スヘシ

明治廿三年
告示第九十八號

○告示第七號 明治二十三年一月二十八日

銃獵免許者其獵期中族籍姓名ヲ變換シ又ハ住居ヲ移轉シタルトキハ所轄警察署ニ届出ヘシ其他管ヨリ寄留セル者ニシテ本管ニ復版シ又ハ管ノ内外ヲ問ハス轉籍若クハ寄留シテ引續キ銃獵スル者ハ甲乙兩地ノ警察署ニ郡役所ヨリ取扱ニ届出該免狀ハ獵期後二十日以内ニ當初受取リタル官衙ニ返納スヘシ

○縣令第十八號 明治二十三年二月二十五日

明治二十二年十一月十一日縣令第百號本文ノ初項ナキ賣買授受ノ下ニ醫師藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ係ルモノハ之ヲ除ク對註ヲ加ヘ且書式中右ハノ下營業上ノ工職用等何々トアルナ「何々」ノ三字ニ更ヘ

○告示第二十一號 明治二十三年三月五日

大野教賀ノ兩監獄ハ本月三十一日限、之ヲ廢シ從來取扱ノ事務ハ同地警察署ニ於テ處理セシム

○縣令第三十號 明治二十三年四月十一日

明治十六年六月甲第四十四號布達違警罪目第九項中「魚鱗ヲ設ケ又ハ」ノ七字同第十三項及第二十項ヲ削除ス

○告示第三十九號 明治二十三年四月十一日

陸軍省火藥類拂下ノ儀ハ從來砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ拂下相成候處自今東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ニ免許證札携帶出願スヘシ

但拂下手續ノ儀ハ從前ノ通

(参照)

甲第廿一號明治十八年三月十七日(本布達、明治廿三年縣令第三十一號、以テ廢止ス)
明治十七年(十二月)第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ陸軍省ニ於テ、東京砲兵第一
方面及ヒ大坂同第二方面ニ於テ火藥類拂下相成候條右營業者ニシテ、拂下希望ノ節ハ免
許鑑札携帶同方面へ願出ツ可ク此旨布達候事

○縣令第三十三號 明治二十三年四月二十八日

明治二十年八月縣令第九十三號乘合馬車取締規則中「第十五條乃至第十九條」ヲ削除シ第二十
條ヲ「第十五條」トシ以下順次繰上ケ尙第十四條中第二十一條第二十二條トアルヲ「第十六
條第十七條」トシ同規則ヲ左ノ通改正ス
第六十二條 第一條第二條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二
條第十三條第十四條第十六條第四項第六項第七項第二十二條第二十四條第二十六條第三
十一條第三十二條第三十七條第三十九條第四十一條第四十三條第四十四條第四十五條第
四十六條第四十七條第五十條第五十四條ニ違背シタルモノ及ヒ第三十四條第三十六條ニ

違背シ他人ノ妨害ヲ爲シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓五十錢以
下ノ科料ニ處セラルヘシ

第六十三條 第二十一條第四十條第四十八條第五十一條ニ違背シ官署ノ督促ヲ受テ應セザ

ルモノハ前條ト同一ノ刑ニ處セラルヘシ

第六十四條 第二十三條第二十八條第二十九條第三十五條第三十八條第四十九條ニ違背シ

制止ヲ肯セザルモノハ第六十二條ト同一ノ刑ニ處セラルヘシ

第六十五條 第三十條第三十三條第四十二條ニ違背シタルモノハ刑法ニ依リ罰セラルヘシ

○縣令第三十四號 明治二十三年四月二十八日

明治二十年八月縣令第九十四號營業人力車取締規則中「第十三條乃至第十七條」ヲ削除シ第十
八條ヲ「第十三條」トシ以下順次繰上ケ尙第十二條中第十九條トアルヲ「第十四條」トシ同罰
則ヲ左ノ通リ改正ス

第五十九條 第二條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十

四條第五項第七項第九項第二十條第二十三條第二十五條第二十七條第二十八條第三十條第

三十四條第三十六條第三十七條第四十條第四十一條第四十四條第四十六條第四十七條第

四十八條第五十一條ニ違背シタルモノ及ヒ第三十條第卅一條ニ違背シ他人ノ妨害ヲ爲シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第六十條 第十八條第十九條第四十九條ニ違背シ官署ノ督促ヲ受ケ應ヒタルモノハ前條ト同一ノ刑ニ處セラルヘシ

第六十一條 第二十一條第二十二條第二十四條第四十五條ニ違背シ制止ヲ背セタルモノハ第五十九條ト同一ノ刑ニ處セラルヘシ

第六十二條 第二十六條第二十九條第三十三條第三十五條ニ違背シタルモノハ刑法ニ依リ罰セラルヘシ

明治十五年軍部百四十一號布達同廿三年告示第七號同告示第百號參看

○告示第九十八號 明治二十三年十月八日

警察ニ關スル願届ノ内差出區分ヲ示スコト左ノ如ク

- 一 左ノ事項ハ所轄警察署又ハ分署ニ經由シ警察本部ニ差出スモノトス
但福井警察署所轄内ニ係ルモノハ其署ヲ經由スルニ及ハス
- 一 銃砲賣買營業願
- 一 銃砲賣買及讓渡讓受願又ハ届

- 一 銃砲檢印願
- 一 銃砲所持ノ者移轉改氏名届
- 一 左ノ事項ハ所轄警察署又ハ分署ニ差出スモノトス
 - 一 遊覽所設置届
 - 一 興行届
 - 一 雨乞届
 - 一 高煙届
 - 一 遺失物埋藏物ニ關スル届
 - 一 行倒人届
 - 一 變死傷人届
 - 一 一人名救助届
 - 一 外國人止宿届
 - 一 神輿巡行ノ際供奉ノ者帶刀届

○告示第百號 明治二十三年十月十一日

警察ニ關スル諸願届中至急ヲ要セザルモノ及ヒ輕易ノ事件ハ便宜巡査駐在所ニ差出スモ妨ケナシ

○縣令第五十九號 明治廿三年十一月廿日

明治十五年八月甲第四百四十一號人民所持銃砲賣買願届書式中「右戶長姓名印」ノ六字ヲ削除ス

○縣令第六十八號 明治廿三年十二月十七日

明治廿一年三月三縣令第四十二號火藥取締細則中左ノ通改正ス

第三條 第五條中所稱警察署ノ下劃注ヲ削リ本文ハ「又ハ分署」ノ四字ヲ加フ

第六條 第七條第八條第十三條中所稱警察署ノ下ハ「又ハ分署」ノ四字ヲ加ヘ其但書ヲ削ル

第十五條 第十八條ヲ削除シ以下逐條繰上シ

第十九條中第四條第七條第十七條ノ文字ヲ削除ス

○縣令第九十四號 明治廿三年十二月廿日

興行取締規則左ノ通相定ム

興行取締規則

第一條 此規則ニ稱スル興行トハ角力輕柔曲馬觀物等諸種ノ興行ニ係ルモノヲ云フ

但劇場寄席ノ如キ特ニ規則ノ設ケアルモノハ此限ニアラス

第二條 興行ヲ爲サントスル者ハ其場所並ニ興行ノ種類日限ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 小屋掛ク又ハ棧敷ヲ設ケル者ハ強韌ナル繩索類ヲ以テ嚴重ニ其木材ヲ結束スヘシ

第四條 興行場ハ出入口二箇所以上ヲ設クヘシ

第五條 木戸錢ハ看客ノ見易キ所ニ掲出スヘシ

第六條 興行ハ夜間十二時限リタルヘシ

第七條 燈火ハ堅牢ナル裝置ヲ爲シ顛墜ノ虞ナカラシムヘシ

第八條 場内ハ清潔ナラシメ且空氣ノ流通ヲ能クスヘシ

第九條 本則第二條ヲ犯シタルモノ及第三條第六條第七條ニ違背シ官ノ督促ヲ受ケ應ゼザルモノハ一日ノ拘留又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

○縣令第三號 明治廿四年一月廿五日

鍛冶及鑄物工場取締規則左ノ通相定ム

鍛冶及鑄物工場取締規則

第一條 鍛冶及ヒ鑄物工場ヲ建設セントスルモノハ願書ニ建設地及ヒ其敷地建坪四圍ノ距離其他煙筒ノ位置構造ノ模様等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘシ

但構造ノ變更スルトキ亦同シ

第二條 工場ノ構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ検査ヲ請フヘシ其修繕ニ係ルモノ亦同シ

但検査ヲ受ケタル後コアラヤレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三條 廢業改氏名又ハ代換リノトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第四條 火焚場ノ天井裏及ヒ其四壁ハ石、煉化石、漆喰等絶テ不燃質物ヲ以テ築造スヘシ

第五條 漆喰又ハ土壁ノモノハ其内部ニ使用シタル燃質物ノ部分ヲ厚サ一寸五分以上ニ塗リ隠シ平滑ナラシムヘシ

第六條 煙筒ヲ建設スルモノハ石、煉化石又ハ金屬其他不燃質物ヲ用ヒ屋上ヨリ三尺以上突出セシムヘシ

但人家ニ接近セサル場所ニ在テハ煙筒ヲ家屋外ヘ横出スルモ妨ケナシト雖モ軒ヲ距ル其高サハ本條ノ尺度ニ依ルヘシ

第七條 前條金屬ノ煙筒ニシテ屋上又ハ側壁ヲ貫通スルモノハ其附若ノ周圍ハ煙筒ノ外部ヨリ幅三寸以上石、煉化石又ハ漆喰ヲ以テ嵌塞スヘシ

第八條 煙筒ヲ用フル屋上ハ其筒心ヨリ方二間以上ハ瓦金屬等ノ不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ

第九條 工場ニハ火氣ノ媒介トナルヘキモノヲ置クヘカラス

第十條 火焚場及ヒ煙筒ハ毎月一回以上掃除ヲナスヘシ

但其期日ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届置クヘシ

第十一條 街路ニ沿フアル工場ハ外面ヨリ見透カサル模様等ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十二條 本則第一條第二條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十五條第五項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

附則

第十三條 從來ノ營業者ニシテ本則ノ構造ニ抵觸スル者ハ來ル七月卅一日迄改造ヲ繼續ス

○縣令第五號 明治廿四年一月廿五日

遊技場取締規則左ノ通改正ス

遊技場取締規則

- 第一條 遊技場トハ大弓揚弓室内射的銃及ヒ玉突吹矢投扇銃等諸種ノ技藝品ヲ備ヘ公衆ニ遊技ヲ爲サシムル場所ナク
- 第二條 遊技營業ヲ爲サントスルモノハ其種類及ヒ場所ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 大弓及ヒ室内射的場ニ在テハ其位置構造及ヒ射程圖數ヲ記シタル圖面ヲ添フヘシ
- 第四條 廢業改氏名又ハ代換リノトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ願出ツヘシ
- 第五條 大弓ニ在テハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
 - 一 射場ノ左右兩側ハ厚サ六分以上ノ板塼又ハ厚サ三寸以上ノ土塼ヲ築シヘシ其高サハ何レモ六尺以上トス

一 標的ノ背後ハ高サ一丈以上ノ障壁ヲ築キ其上端ハ厚サ二尺以上トシ其幅ハ兩側ノ塼ヨリ狹ムヘカラス

一 射程ハ十五間以内タルヘシ

第六條 室内射的銃ニ在テハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 射的室ノ左右兩側ハ原サ四分以上標的ノ背後ハ同ク六分以上ノ板ヲ張ルカ若シハ土壁トナスヘシ

一 標的ニ鐵板ヲ用フルトキハ返射ヲ防ク爲メ其上端ヲ少シク前ニ傾斜セシムヘシ

一 銃口ハ人ノ立向ハナル方角ニ向ケ置クヘシ

第七條 揚弓並ニ吹矢ノ類ニ在テハ射室ノ兩側標的ノ背後ニハ相當ノ障壁ヲ設テヘシ

第八條 射的ノ場所又ハ技具ノ破損シタルトキハ些少タリトモ速ニ修理スヘシ

第九條 大弓及ヒ室内射的銃ハ其射法不慣ト認ムル者ヘハ之ヲ傳習セタル後射擊セシメ又大醉セリト認ムル者ヘハ射擊セシムヘカラス

第十條 夜間ハ十二時限リ閉場スヘシ

第十一條 點燈ハ堅牢ノ装置ヲ爲シ頗墜ノ虞ナカクシムヘシ

第十二條 遊技料ハ遊技者ノ見易キ所ニ掲示スヘシ

第十三條 場内ハ常に清潔ナラシムヘシ
 第十四條 本則第二條第三條第十條ヲ犯シタル者及ヒ第八條ニ違背シ官ノ督促ヲ受ケ應セサル者ハ一日ノ拘留又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十五條 從來ノ營業者ニテ本則ノ構造ニ抵触スルモノハ來ル七月三十一日迄改造ヲ豫ス

明治廿二年
 令第百二號

○縣令第六號 明治廿四年一月廿九日
 湯屋取締規則左ノ通改正ス

湯屋取締規則

第一條 湯屋營業ヲ爲キントスル者ハ願書ニ建設ノ地名浴湯ノ種質(洗湯、湯湯、噴泉)構造ノ摸樣並ニ接近ノ人家道路及ヒ下水ノ流通先々等ノ圖面ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘシ

但構造ヲ變更スルトキ亦同シ

第二條 建築構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ検査ヲ請フヘシ其結構ニ

係ルモノ亦同シ

但検査ヲ受ケタル後コアラカレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三條 廢渠改氏名又ハ代換リノトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第四條 火焚場ノ天井裏及ヒ其四壁ハ石、煉化石、漆喰等總テ不燃質物ヲ以テ築造スヘシ

第五條 火焚場ノ漆喰又ハ土壁ニ係ルモノハ其内部ニ使用シタル燃質物ノ部分ヲ厚サ一寸五分以上ニ塗り隠シ平滑ナラシムヘシ

第六條 火消所並ニ灰皿所ノ構造ハ坑穴又ハ石、煉化石、漆喰ノ類ヲ以テ構造シ各個隔日ノ使用ニ供スル爲メ中央ニ仕切ヲ設ケ其蓋ハ安全ノ不燃質物ヲ用フヘシ

第七條 灰又ハ消炭ハ火氣消盡シタル後ニ非ラサレハ他ニ移スヘカラス

第八條 火焚場火消所及ヒ灰皿所ノ近傍ニハ火氣ノ媒介トナルヘキモノヲ置クヘカラス

第九條 煙筒ヲ建設スルトキハ石、煉化石又ハ金屬其他不燃質物ヲ用ヒ屋上ヨリ三尺以上突出セシムヘシ

但人家ニ接近セサル場所ニ在テハ煙筒ヲ家屋外ニ横出スルモ妨ケナシト雖モ軒ヲ距ル其高サハ本條ノ尺度ニ依ルヘシ

- 第十條 前條金屬ノ煙筒ニシテ屋上又ハ側壁ヲ貫通スルモノハ其附着ノ周圍ハ煙筒ノ外部ヨリ幅三寸以上石、煉化石又ハ漆喰ヲ以テ嵌塞スヘシ
- 第十一條 煙筒ヲ用フル屋上ハ其筒心ヨリ方二間以上ハ瓦、金屬等ノ不燃質物ヲ以テ覆蓋スヘシ
- 第十二條 火焚場煙筒火消所及ヒ灰置所等破損ノ箇所アルトキハ速ニ修理スヘシ
- 第十三條 火焚場及ヒ煙筒ハ毎月一回以上掃除ヲ爲スヘシ
但其期日ハ所轄警察署又ハ分署ニ届置クヘシ
- 第十四條 浴室浴場及ヒ脱衣所ハ男女ノ境界ヲ劃リ之カ障蔽ヲ設クヘシ
- 第十五條 浴場ニハ掛リ湯ヲ設ケ且小桶ヲ男女各十個以上備フヘシ
- 第十六條 浴場ハ毎日換水シ且浴室浴場ヲ勉メテ清潔ニ掃除スヘシ
但鑛泉、藥湯等特別ノ許可ヲ受ケタルモノハ本條前段ノ限ニアラス
- 第十七條 浴場ハ外面ヨリ見透カサル様態等ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
- 第十八條 浴客ノ注意ヲ要スル件ハ其場内衆人ノ見易キ所ニ常ニ揭示シ置クヘシ
- 第十九條 夜間ハ十二時限ヲ入浴ヲ止ムヘシ
但烈風ノトキハ時間ニ拘ラズ焚火ヲ停ムヘシ

- 第二十條 浴客ノ遺留品アリテ事主知レザルトキハ遺失物取扱規則ニ據リ所轄警察署分署又ハ巡查駐在所ニ届出ツヘシ
 - 第二十一條 藥湯營業者ハ此規則ノ外尙キ賣藥規則ヲ遵守スヘシ
 - 第二十二條 本則第一條第二條第十九條ヲ犯シタル者及ヒ第十二條第十五條第十九條但書ニ違背シ官ノ督促ヲ受ケ應セザル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附則
- 第二十三條 此規則ハ市町及ヒ之ニ接續連絡スル地ニ施行シ其他ハ本則ニ倣ヒ漸次改訂スヘシ
 - 第二十四條 從來ノ營業者ニシテ本則ノ構造ニ抵觸スルモノハ來ル十二月卅一日迄改造ヲ猶豫ス
- 縣令第十六號 明治廿四年三月十三日
- 巡查派出請願規則左ノ通相定ム
- 巡查派出請願規則

明治廿四年告示第三十四号

- 第一條 巡查ノ派出ヲ請願セントスル者ハ其事由人員並ニ派出ノ場所及ヒ期限ヲ具シ三十日前所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ當廳ヘ願出ツヘシ
- 第二條 派出期限六ヶ月以内ノモノハ時宜ニ依リ之ニ應セサルコトアルヘシ
- 第三條 凡ソ巡查ノ派出法ハ晝夜一名ノ常詰ニハ二名二名ハ四名ノ割合ヲ以テ交代勤務ス但勤務ノ繁閑ニ依テハ人員ヲ増減スルコトアルヘシ
- 第四條 巡查ノ費用ハ別ニ告示スル所ノ額ニ依リ所轄警察署又ハ分署ニ前納スヘシ但派出期限六ヶ月以上ニ涉ルモノハ六ヶ月毎ニ分納スルコトヲ得其會計年度ニ跨ルモノハ年度毎ニ分納スヘシ
- 第五條 前條ノ費用前納ヲ怠ルトキハ派出ヲ停止シ尙ホ派出中ノ費用ハ月割又ハ日割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ
- 第六條 派出請願ノ期限内ニ之ヲ廢止セント欲スルモノハ遅クモ三十日前ニ其事由ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ當廳ニ申出ツヘシ但派出停止後ニ係ル剩餘ノ金額ハ之ヲ還付スヘシ
- 第七條 巡查詰所ノ備付品及ヒ其消耗品ハ願人ヨリ現品ヲ以テ供辨スヘシ

明治廿四年告示第七十八号

○告示第三十四號 明治廿四年三月十三日
 明治廿四年度以後配置請願巡查費用徵收額通常縣會ノ議決ヲ取リ左ノ通相定ム
 一金百貳拾圓 巡查一人一ヶ年額
 但一年ニ滿タサルモノハ本額ニ依リ月割又ハ日割ヲ以テ徵收ス

○告示第六十九號 明治廿四年四月十六日
 今般越前國足羽郡木田村木田地方ニ木田警察署ヲ全吉田郡松岡村松岡本ニ當分松岡警察署ヲ全今立郡鯖江町上深江ニ鯖江警察署ヲ置キ武生警察署所屬栗田部分署ヲ鯖江警察署ニ屬シ其警察署分署及ヒ福井武生兩警察署所轄區域左ノ通相定メ來ル五月一日ヨリ開署事務取扱ハシム

但福井警察署所屬松岡分署武生警察署所屬鯖江分署ハ來ル四月三十日限リ相廢ス
 警察署分署所轄區域
 福井警察署
 福井市一圓
 木田警察署

足羽郡一圓

松岡警察署

吉田郡 森田村ノ内河合寄安漆原河合新保
五領ヶ島村ノ内領家種瓜ヲ除ク

越江警察署

今立郡一圓

栗田部分署ノ所轄ハ北日野村及ヒ國高村ノ内横市、庄、除キ北新庄村ノ内中新庄ヲ加
ヘ其他ハ従前ノ通

武生警察署

南條郡一圓

今立分署所轄ハ従前ノ通

○縣令第廿九號 明治廿四年四月十八日

明治廿一年三月三縣令第四十二號火藥取締規則中左ノ通追加改正ス

第一條 第二條中「所轄警察署ヲ」分署部内ノ者トアルヲ「所轄警察署又ハ分署ヲ」ト改ム

第六條左ノ如ク改ム

明治二十二年
縣令第百八號

○縣令第三十四號 明治廿四年四月廿四日
劇場取締規則左之通改正ス

劇場取締規則

第六條 坑業土工用ニ供シタル火藥類ノ殘餘アルトキハ之ヲ十五日內ニ燃棄者ニ賣渡ス

ヘシ若シ其殘餘ヲ同期限中他ノ事業ニ供セントスルトキハ更ニ其旨趣及ヒ種類數量ヲ
記シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第十六條ノ次ヘ左ノ二條ニ追加シ以下順次繰下シ

第十七條 規則第七條第十二條ノ届出ハ警察分署所轄内ノ者ハ其分署ニ届出同第十條第

廿二條ノ許可證モ亦同分署ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十八條 規則第廿二條ノ許可證納付ノ場合ニ在テ其運搬先他ノ警察署又ハ分署所轄内

ナルトキハ之ヲ其地ノ警察署又ハ分署ニ納ムヘシ

第十九條中第八條ノ下ヘ「第十七條第十八條」ノ八字ヲ加フ

第二十一條中違背ナルモノハノ下末文ヲ「二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス」ト

更ム

第一條 劇場ヲ創設セントスル者ハ其地名坐名ヲ記シタル圖書ニ建築圖仕樣書及ヒ關係道路ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 劇場ヲ廢止又ハ讓渡シタルトキ若クハ轉居改氏名代替リアリタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ當廳ニ届出ツヘシ

但讓渡ノ場合ニ在テハ雙方ノ連署ヲ要ス

第三條 劇場ヲ再築シ又ハ改造増築セントスルトキハ圖書ニ圖面及ヒ仕樣書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 劇場ノ新築改造増築ハ起工落成トモ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ其落成ノ場合ニ在テハ檢査ヲ受クヘシ

但認可ヲ得タル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第五條 左ノ場合ニ在テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ

- 一 地盤及ヒ奈落廻リ舞臺ノ下構造工業ノ央
- 一 諸材切組建方著手ノ前
- 一 建揚ケ垂木打渡著手ノ前

第六條 建築ノ許可ヲ得タル日ヨリ滿六ヶ月間起工セヌ又ハ起工スルモ其日ヨリ滿一年六

ヶ月間ニ落成セザルトキハ其許可ノ効ヲ失フモノトス

第七條 總テ非常口ノ木戸ニハ其内外ニ非常口ノ三字ヲ掲記スヘシ

但二階樓敷ノ非常階子口ニ設ケタル戸ニハ其正面ニ非常階子口ノ五字並ニ其肩ニ引戸又ハ開戸ノ二字ヲ掲記スヘシ

第八條 演劇ヲ興行セントスルトキハ其日數時間及ヒ俳優ノ氏名ヲ記シタル圖書ヲ添ヘ二日前ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第九條 場中通觀ノ便ナル所ニ警察官吏ノ出張席ヲ設クヘシ

第十條 樓敷土間ノ座席ハ一人ニ付曲尺方一尺八寸以上タルヘシ

第十一條 二階ノ追込場大入ハ一坪ニ付十二人ヲ定員トス

第十二條 二階ノ立チ見ノ場所アルモノハ一坪ニ付十八人ヲ定員トス

第十三條 興行時間ハ午前七時ヨリ午後十二時迄ノ内ヲ以テ八時間限リタルヘシ

第十四條 演劇ノ所作猥褻ニ涉リ其他風俗ニ害アリト認ムルトキハ臨場警察官吏ニ於テ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條 觀客ヲシテ樂屋ニ入ラシメ又ハ俳優ヲシテ觀客席ニ入ラシムヘカラス

第十六條 廊下階子段非常口其他通路ニ妨礙トナルヘキ物品ヲ置クヘカラス

第十七條 場内ノ點点燈ニ石油ヲ用フルトキハ火止石油ニ限ルヘシ

第十八條 場内ノ點点燈ハ墜落頗仆シ又ハ物ノ之ニ觸レ危險ヲ生スルノ虞ナキ様堅固ニ之

カ防備ヲナスヘシ

第十九條 引幕ノ飄揚シ點燈等ニ觸レタル様紐ヲ以テ之ヲ止ムヘシ

第二十條 廊下階子段其他剛及ヒ之カ通路等總テ往來ノ箇所ニハ燈火ヲ掲グヘシ

但非常口ニシテ燈光ノ達セザル所ハ本條ニ依リ其傍ヲニ掲燈スヘシ

第二十一條 演劇作用又ハ面火差出ノ外裸火ヲ用フヘカラス樂屋等ニ於テモ亦同シ

第二十二條 其其他燃焼シ易キ物品ヲ演技ノ具ニ用フルトキハ其演技畢リシ後直ニ火災

ノ危險ナキ場所ニ收藏スヘシ

第二十三條 劇場ニハ防火具ヲ備ヘ消防及ヒ觀客救助ノ方法ヲ定メ豫メ所轄警察署又ハ分

署ヘ届出ツヘシ

第二十四條 劇場ヨリ直徑七丁以内ノ出火其他非常ノトキハ表木戸及ヒ非常口ヲ直ニ開

放スヘシ

第二十五條 演劇終テ觀客ノ散スルトキハ表木戸ハ總テ之ヲ開クヘシ

第二十六條 便所及ヒ場内ハ總テ清潔ニ掃除スヘシ

但便所ニハ防臭劑ヲ撒布スヘシ

第二十七條 觀客ノ注意ヲ要スル件ハ衆目ノ觸ル易キ所ニ揭示スヘシ

第二十八條 演劇外ニ劇場ヲ使用スルトキモ尙ホ此規則ヲ遵守スヘシ

第二十九條 本則第一條第三條第八條第十三條第二十一條ヲ犯シタル者及ヒ第十七條第十

八條第二十條第二十二條第二十六條ニ違背シ官ノ督促ヲ受ケ應セザルモノハ刑法第四百

二十八條第五項ニ依リ一日ノ拘留又ハ拾錢以上罰金以下ノ科料ニ處セラルヘシ

○縣令第三十五號 明治廿四年四月廿四日

明治廿二年^{十二}月 縣令第百八號劇場建築標準中第十九條第二十條ヲ削除シ第廿一條ヲ第十九

條トシ以下順次繰上シ

○縣令第三十六號 明治廿四年四月廿九日

消防組取締規則左ノ通改正ス

消防組取締規則

第一條 消防組ハ警察官吏ノ監督ニ屬シ消防ノ際ニ在テハ其指揮ニ從フヘシ

明治廿四年^{第一}縣令第^二十二號(郡市町村^三官吏職務市町村^四條例ノ部ニ出ス) 違背

第二條 消防組ノ途上往返ハ必ス隊伍ヲ整ヘ往來人ノ妨ケトナラザル様注意スヘシ

第三條 消防組行進中軍隊並ニ砲車輜重車又ハ警察官吏若シハ學校生徒ノ隊伍ニ行進フト

キハ道路ノ右側ヲ取り通行スヘシ消防組互ニ行進フトキ亦同シ

第四條 出火ノ際ニアラスレバ私ニ隊伍ヲ組ミ途上ヲ往返スヘカラス

第五條 消防夫ハ出火ノ際貨物器具ノ運搬ヲ助ケヘカラス

第六條 消防組ハ鎮火ニ至ラハ其場ニ整列シ警察官吏ノ点檢ヲ受クヘシ

第七條 警察官吏ニ於テ消防夫ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ其事由ヲ所屬市町村長

ニ通告スヘシ

第八條 本則ハ強風出水等アリテ其防務ヲ要スルトキモ亦之ヲ適用ス

○告示第七十八號 明治廿四年四月廿九日

去ル十六日第六十九號ヲ以テ告示セシ木田警察署ハ當分福井市旭町ニ置ク

○縣令第三十八號 明治廿四年五月六日

火藥類賣買營業許可スヘキ區劃人員左ノ通改定ス

福井市内	二人
足羽郡内	一人
吉田郡内	一人
大野郡内	二人
坂井郡内	一人
丹生郡内	一人
今立郡内	二人
南條郡内	一人
敦賀郡内	一人
三方郡内	一人
遠敷郡内	一人
大飯郡内	一人

○縣令第四十六號 明治廿四年六月二十日

寄席取締規則左ノ通改正ス

寄席取締規則

- 第一條 寄席營業ヲ爲サントスル者ハ其建設地ヲ記シタル願書ニ家屋ノ構造及ヒ其近傍道路幅ヲモ記ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘシ
但構造ヲ變更スルトキ亦同シ
- 第二條 廢業轉居改氏名又ハ代替リノトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ツ可シ
- 第三條 客席ハ一坪ニ付九人以下ノ割合タルヘシ
- 第四條 寄席ハ幅五尺以上ノ表木戸並ニ左右後面ノ内ニ一箇所以上同幅ノ非常口ヲ設ケ其木戸ハ總テ之ヲ外開キ又ハ引戸ト爲スヘシ
但非常口ニハ其内外ニ非常口ノ三字ヲ掲記スヘシ
- 第五條 席内ニハ各所ニ窓牖ヲ設クヘシ
- 第六條 寄席ニ棧敷ヲ設ケ又ハ二階ヲ以テ寄席トスルモノハ左ノ項ヲ遵守スヘシ
一 階子ノ階段ハ箱段ニシテ蹴込ハ六寸ヨリ高カラス同踏面ハ八寸ヨリ短縮スヘカラス
其階子ハ横幅内法四尺五寸以上トシ且欄柵ヲ設クヘシ
- 第七條 廁ノ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ石、磁キ、陶器等ヲ以テナスヘシ
- 第八條 寄席ノ新築又ハ構造ノ變更ハ落成ノトキ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

ヘシ

但検査ヲ受ケケル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

- 第九條 興行ヲ爲サントスルトキハ其日數時限並ニ技藝ノ種類藝人ノ氏名ヲ記シ其前日迄ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ
- 第十條 興行時間ハ午前七時ヨリ午後十二時迄ノ内ヲ以テ八時間限リタルヘシ
- 第十一條 猥褻其他風俗ニ害アル演藝ヲ爲スヘカラス
- 第十二條 席内ノ点燈ニ石油ヲ用フルトキハ火止石油ニ限ルヘシ
- 第十三條 席内ノ点燈ハ墜落頓仆シ又ハ物ノ之ニ觸レ危險ヲ生スルノ虞ナキ様堅固ニ之カ防備ヲ爲スヘシ
- 第十四條 廊下其他廁及ヒ之レカ通路等總テ往來ノ箇所ニハ燈火ヲ掲クヘシ
- 第十五條 客ヲシテ藝人ノ休息所ニ入ラシメ又ハ藝人ヲシテ客席ニ入ラシムヘカラス
- 第十六條 客席及ヒ便所等ハ清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ
- 第十七條 寄席ヨリ直徑七丁以内ノ出火其他非常ノトキハ表木戸及ヒ非常口ヲ直チニ開放スヘシ
- 第十八條 客ノ注意ヲ要スル件ハ衆目ノ觸レ易キ所ニ揭示スヘシ

第十九條 本則第一條第九條第十條第十一條及第十二條第十三條第十四條
 第二十條 從來ノ營業者ニシテ其構造ノ本則ニ抵觸スルモノハ來ル明治廿五年十二月三十
 一日迄改築ヲ猶豫ス

附則
 第二十條 從來ノ營業者ニシテ其構造ノ本則ニ抵觸スルモノハ來ル明治廿五年十二月三十
 一日迄改築ヲ猶豫ス

明治廿一年
 令第十號

○縣令第五十五號 明治廿四年七月廿二日

荷車取締規則左ノ通相定ム

荷車取締規則

第一條 此規則ニ荷車ト稱スルハ人ノ輓クト牛馬ニ輓カセムルトノ別ナク貨物ヲ運搬スル
 諸車ヲ云フ

第二條 車体ノ全長ハ曲尺十四尺以上ニ超ルコトヲ得ス

第三條 諸車車輪ノ齒幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但大小車ノ區別ハ荷重ノ尺積十四坪以上ヲ大車トシ十四坪未満ノモノハ小車トス

一 牛車ハ 曲尺二寸以上

- 一 馬車ハ 曲尺一寸五分以上
- 一 大車ハ 曲尺一寸二分以上
- 一 小車ハ 曲尺一寸以上

第四條 車体ノ見易キ所ニ所有主ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

第五條 牛馬ノ口綱ハ三尺以外ニ執ルヘカラス

第六條 數車連續進行スルトキハ三輛毎ニ二間以上ノ間隔ヲ置クヘシ

第七條 跡押ノミニテ車ヲ運轉スヘカラス

但猫車ト稱スル小車ハ此限ニアラス

第八條 粉類ハ飛散セサル様装置ヲ爲シ其末口ノ尖リタル物件ハ其末口ヲ覆束シ又ハ包裹ス
 一 〇

第九條 車ヲ並ヘ輓キ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十條 車二輛以上ヲ連續シテ輓クヘカラス

但長大ノ物品ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限リニ非ス

第十一條 牛馬諸車及ヒ歩行者ニ行達フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輻重車ニ對シテハ右
 ニ避クヘシ

- 第十二條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 第十三條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合點ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 第十四條 郵便用、消防用ニ供スル車馬及ヒ漚水車又ハ葬送等ニ行進フトマハ避讓スヘシ
- 第十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及ヒ路角、橋上ヲ通行スルトキハ徐行スヘシ
- 第十六條 路角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
- 第十七條 出火場其他雜沓ノ場所ニ車ヲ執キ入ルヘカラス
- 第十八條 路角、橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ車ヲ駐止スヘカラス
- 第十九條 道路ニ於テ荷物ヲ積卸シ又ハ休息セントスルトキハ車牛馬物件ヲ路傍ニ片寄スヘシ之ヲ横タフル等通行ノ妨害ヲナスヘカラス
- 第二十條 本則第二條第三條第四條ニ違背シ又ハ第六條第七條第八條第十條第十八條ニ違背シ制止ヲ肯セサルモノ及ヒ第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條ニ違背シ他人ノ妨害ヲ爲シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十一條 本則第十七條ニ違背シ制止ヲ肯セサルモノハ刑法第四百二十七條ニ依リ第九條第十九條ニ違背シタルモノハ同法第四百二十九條ニ依リ處分セシムヘシ

附則

第二十二條 從來ノ荷車ニシテ本則ニ抵觸スル車体ハ本年十二月迄車輪ニ來ル明治二十八年十二月迄改造ヲ猶豫ス

○告示第四百十六號 明治廿四年九月廿六日

巡查志願ノ者ハ左ノ書式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ當廳ニ差出スヘシ

離形

巡查志願書 (用紙半紙)

某儀

本縣巡查奉職志願ニ付御試驗被成下度別紙履歷書相添ヘ此段奉願候也

何府縣國都市町村字名番地華士族平民

戶主又ハ何某嗣子何男兄弟等ノ別

(當時何地寄留)

年月日

職業 氏名 實印

何年何月

福井縣知事氏名宛

雛形

履歷書 (用紙半紙)

何府縣華士族平民

氏

名

何年何月生

住所ノ移動

一何年何月何地ニ生レ何年何月迄居住ス

一何年何月何地ニ移轉セ(一市郡内ニ係ルモノハ記載ヲ要セス)何年何月迄同地ニ居住ス

一何年何月ヨリ現住所ニ居住ス

學事

一何年何月ヨリ何年何月迄何地何某ニ就キ何學ヲ修ム

一何年何月ヨリ何地官公立何學校ニ入リ何學ヲ修業セ何年何月卒業ス

但卒業證書別紙寫ノ通

一何年何月何學校何官署ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス

但其證書ハ別紙寫ノ通

前職

年月日

何府縣

一任何官

何府縣

年月日

一依願免本官(免本官)

一何年何月ヨリ何年何月迄(月給何圓又ハ日給手當等)何地何會社(何業何某方)ニ雇ハレ

一何年何月ヨリ何年何月迄何職業ニ従事ス

一何年何月何々ノ職ヲ以テ何官廳ニ於テ何々ノ賞ヲ受テ

一何年何月何々ノ職ヲ以テ何官廳ニ於テ何々ノ賞ヲ受テ

右ノ通相違無之候也

氏 名 實 印

○縣達第六十號 明治廿四年十月十三日

郡市町村 公立病院

明治廿年(三月)縣達第四十一號ヲ以テ新潟縣巡査守給助願屆證明方ノ件相違査候處今般全縣ノ通牒ニ依リ該達中給助金領收書トアルヲ請求書ト訂正ス

明治二十四年
第七十二號
中追加
以テ本文

○縣達第六十三號 明治廿四年十一月十五日

郡市町村

明治十七年(四月)丙第三十三號ヲ以テ警視廳巡查志願者身分證明書ニ奧印ノ義ニ付相違置
候處今般同願ヨリ該書式左ノ通改正候旨通牒有之候條此旨心得フヘシ

身元證明書

氏名

原籍	何府縣何郡市何區町村何番地又ハ何某方同居
身分	華士族又ハ平民戶主或ハ何某何男兄弟
生年月日	年月日生
家資分産又ハ身代限	無 但シ家資分産ノ宣告ヲ受ケタル者ハ復權ヲ得タルヤ否又從前身分ノ辨價ヲ終リタルヤ否ヤヲ記スヘシ
兵役	國民軍或ハ現役歸休豫備後備等 但シ徵集猶豫延期免除等ニ係ルモノハ其理由ヲ記スヘシ

右證明候也

年月日

何府縣何郡市何區町村長 氏

名印

○縣達第七十二號

明治廿四年十二月廿六日

郡市町村

本年十一月縣達第六十三號中「巡查」ノ下「及看守」ノ三字ヲ挿入ス

明治二十五年六月十日印刷
全 年六月十三日出版

福井縣

版權登錄

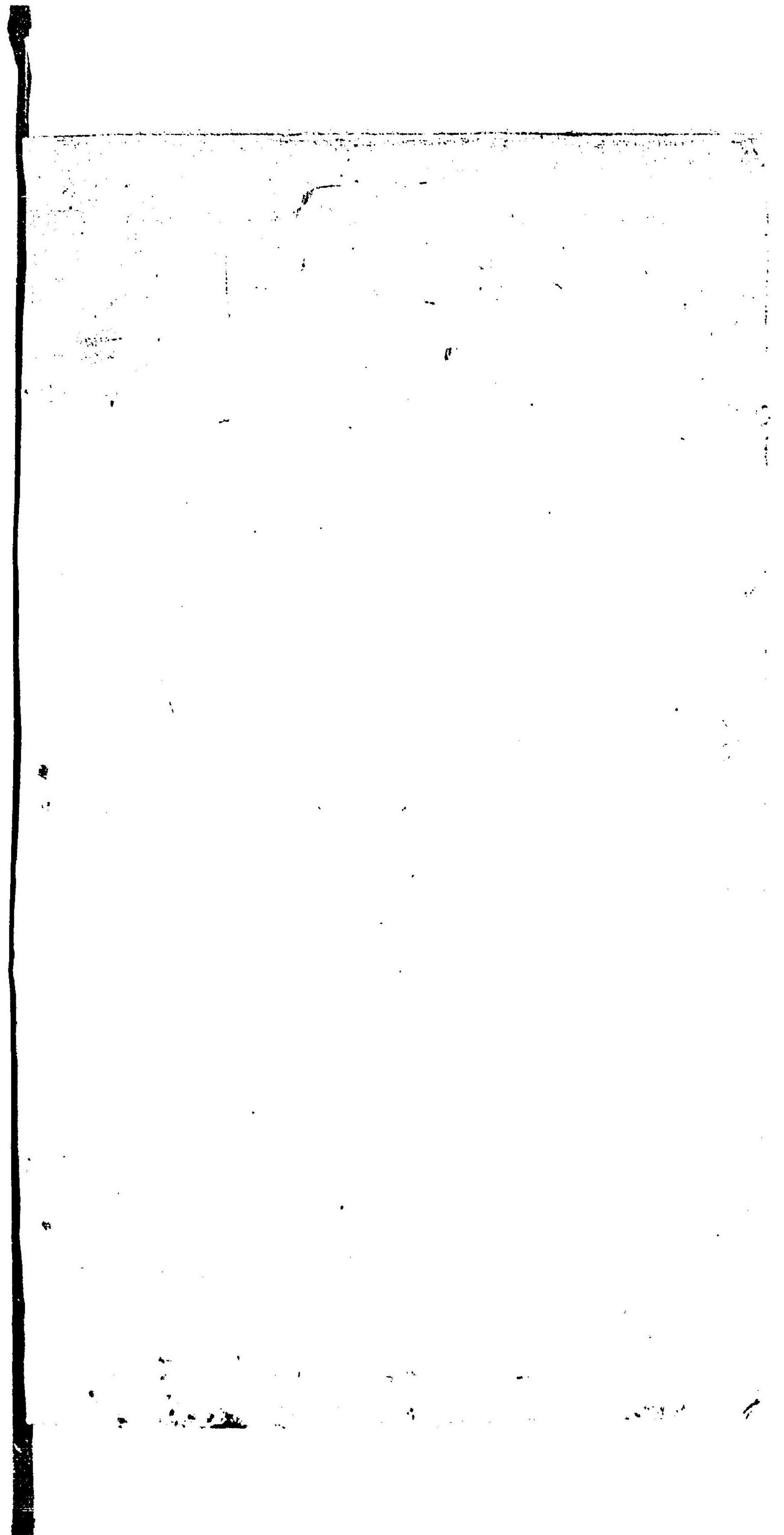
版權
所有

發行者 品川 太右衛門

福井縣福井市佐佐木中町五十二番地

印刷者 岡崎 左喜介

全縣全市照手上町五番地



C2
1113
51-02

警察及監獄

